

令和8年度入学式式辞

本日ここに、令和8年度東北文教大学山形城北高等学校入学式を挙げるにあたり、ご来賓の皆様をお迎えし、新入生の皆さんをこのように盛大に祝福できますことは、私ども教職員にとりましても、この上ない喜びであります。

ただ今、入学を許可いたしました304名の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは、おそらく人生で初めての試練とも言うべき入学者選抜試験に臨み、本日、晴れて本校への入学を認められました。まずは、その努力を心から讃えます。

アドラー心理学には、「未来だけでなく過去までも変えることができる」という考えがあります。大切なのは、「今、ここを生きる」ことに集中し、「これから何ができるか」に力を注ぐことだ、という教えです。

人は、過去によって未来のすべてが決められてしまうような存在ではありません。本校に憧れて入学した人も、第一志望が別にあった人も、あるいは不登校の経験をもつ人も、今、皆さんは同じ出発点に立っています。苦しいときほど、「今、ここを生きる」という原点に立ち返ってください。今日という一日をどう生きるか、その積み重ねが、やがて皆さん自身の未来を形づくっていくのです。

さて、本校の歩みは、大正15年（1926年）、山形裁縫女学校の設立に始まります。大正末期から昭和初期にかけて、世界的な大不況の波は山形にも及び、学校は閉校を余儀なくされました。しかし、主任教員であった富澤カネ氏は、生徒への責任と教育への熱い志のもと、新たな学校の設置を決意しました。そして昭和8年、県の認可を受け、山形女子職業学校として新たな歩みを始めました。

初代校長に就いた富澤カネ氏は、回顧録の中で次のように述べています。

「どんなに時流が変わっても、人間として生きるため、これだけは変わるまい、と突き詰めて考え生まれたのが『敬愛信』である。人を敬い、人を愛し、人を信じる。またそれは、人に敬われ、愛され、信じられる人間になってほしいという願いが込められている」

本校は、いよいよ創立100周年という節目の年を迎えました。ここに至るまでには、創設者の志を受け継ぎ、この学校を築いてこられた多くの方々のご尽力がありました。その思いを受け継ぎ、次の時代へとつないでいくために、私たちもまた、新たな一步を刻んでいかなければなりません。

昨年夏、私はスペインを旅し、バルセロナでサグラダ・ファミリアを訪れました。今なお建設が続くこの聖堂もまた、今年、特別な節目を迎えます。設計を大きく発展させた建築家アントニ・ガウディが亡くなったのは1926年6月のことであり、今年は没後100年に当たるのです。

サグラダ・ファミリアがライトアップされ、夕闇に浮かび上がった瞬間、私は鳥肌が立つほどの感動を覚えました。しかし、私の心を打ったのは、単にその壮大さや美しさだけではありません。この聖堂は、着工当初は別の設計者によって計画され、その後、ガウディがこれを引き継ぎ、構想を大きく発展させた建築です。

そして今では、ガウディの時代には存在しなかった技術や工法を用いながら、建設が進められています。ガウディは、空に向かって高く伸びるクレーンの姿を知りません。けれども、それはガウディの志に背くものではなく、むしろ彼の願いを現代の技術によって形にしようとする営みなのだと思うのです。

私はそこで、「伝統」の本当の意味にあらためて気づかされました。伝統とは、形を一つも変えずに守ることではありません。大切な精神を受け継ぎながら、時代の変化に応じて新たな形を生み出していくことです。そして、真に受け継がれているものの中にこそ、新しさが宿るのです。

本校もまた、長い歳月の中で、多くの人々の願いと支えの中で歩んできました。けれども、その価値は、建学の精神を大切にしながら、時代にふさわしい教育のあり方を模索し続けてきたところにあります。

皆さんが初めて袖を通す、装いを新たにした制服もまた、その一つの象徴です。スクールカラーである紫を取り入れ、春と秋には上下を自由に組み合わせて着こなせるよう工夫されており、一人ひとりの主体的な選択を大切にした制服となっています。そこには、伝統を大切にしつつ、今の時代にふさわしい学校であり続けようとする本校の決意が表れているのです。

工事の続くサグラダ・ファミリアの門をくぐり、大聖堂の中へと歩みを進めると、ステンドグラスを通した光の空間が広がります。その光は時とともに色を変え、堂内はさまざまな表情を見せてくれます。

今日入学する皆さんもまた、まだ完成された存在ではありません。長い歴史の礎の上に立ち、これからの城北をつくっていく一員として、この門をくぐるのです。新たな学びや友との出会いを重ねる中で、きっと自分らしい光を帯びていくことでしょう。

どうかこの節目の年に入学する者として、先人の歩みを敬い、ともに学ぶ仲間を愛し、自分自身の未来を信じながら、大きく成長してほしいと願っています。

結びになりますが、保護者の皆様に一言ご挨拶申し上げます。

本日は、ご入学、誠におめでとうございます。今日まで、深い愛情をもってお子様の成長を支えてこられた皆様のお喜びも、ひとしおのことと拝察申し上げます。高校時代は、心も身体も大きく成長する一方で、悩みや迷いを抱えることも多い時期であります。教職員一同、生徒一人ひとりにしっかりと向き合い、その成長を支援してまいります。

ご家庭におかれましても、子どもたちの実り多い高校生活という共通の願いのもと、生徒たちの挑戦を温かく後押ししていただくとともに、学校でのさまざまな経験を成長の糧として前向きに受け止めていただき、力を合わせてまいりましょう。本校の教育活動全般に対し、格別のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

新入生の皆さん。この三年間、好きなことや得意なことを大いに伸ばしながら、一人ひとりが自らの未来をたくましく築き上げてくれることを願い、式辞といたします。

令和8年4月8日

東北文教大学山形城北高等学校 校長 大沼 敏美